

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の検出とその対応について

市立奈良病院において、バンコマイシン耐性腸球菌（以下 VRE）が多数検出いたしました。その経過と対応についてご報告させていただきます。

○VRE について

腸球菌はヒトや動物の腸などに常在する菌です。VRE（vancomycin-resistant enterococci）とは、バンコマイシン（抗生物質）に対し耐性を獲得した腸球菌であり、普通の健康な人の腸内などに VRE がいても病原性が非常に弱いので病気（感染症）をおこすことはありません。問題となるのは VRE による「感染症」が、手術後の入院患者や重篤な基礎疾患を有する患者におこった場合です。

VRE は保菌者の便・尿処理後の不十分な手指消毒や不十分な環境整備から、直接的・間接的な接触感染で拡がり伝播します。また、VRE は、特別な培養検査で検査をしないと検出されない菌であり、院内の感染状況を知るのがとても難しい菌です。昨年度より奈良県において VRE 発生が多数報告されており、当院でも VRE をはじめ各種多剤耐性菌について最大限の警戒をしておりました。

○当院における経過

2019 年 12 月に入り、当院 4 階東病棟から転院された患者さんから VRE が確認されたとの連絡を、転院先の病院よりいただきました。その連絡を受け、当該病棟全体でスクリーニング検査を実施したところ、保菌されている患者さんが 12 名確認され、VRE の院内伝播の可能性が考えられました。

保菌されている患者さんの中に、VRE による感染症を発病されている患者さんはおられませんでしたが、また、保菌されている患者さんがこれまでの間に 1 名亡くなっていますが、死因は原病の進行であり、VRE による感染症ではありませんでした。

病院の対応といたしまして、感染対策委員会を開催し、病院長によるアウトブレイク宣言を行いました。現在、関連病棟の VRE スクリーニング検査を行うとともに、伝播経路の解明、最大限の感染防止策、職員への改めての感染防止教育に取り組んでおります。本事例の早期終息を図るとともに再発防止に向けて、環境培養、定期的なスクリーニング検査、入院患者さんへの保菌検査などを行っていく予定としております。奈良市保健所には、事例発生当初より随時報告を行っており、適切な指導をいただいております。また、感染対策の外部評価として、奈良県立医科大学感染症センターより来院いただき、助言・指導を得て感染拡大防止の徹底した対策に取り組んでいます。

患者さんおよびご家族の皆様には、感染拡大防止に全力を尽くす旨の説明をしておりますが、大変なご心配をお掛けしておりますことにつきましてお詫び申し上げます。また、地域の連携施設の皆様にも多大なご迷惑をおかけいたしておりますが、地域の皆様に安全な医療が提供できるよう病院全体で取り組んでおりますのでご協力お願いいたします。

2019 年 12 月 27 日

市立奈良病院

院長 矢島 弘嗣